



1 検討委員会の設置・運営

【検討委員会の設置経過】

- ・委員会設置準備 平成 24 年 4～5 月
- ・公募委員募集 平成 24 年 6 月
- ・公募委員選定・委員委嘱 平成 24 年 7～10 月
- ・専門部会の設置 平成 24 年 11 月

【検討委員会の委員構成：平成 24～26 年度】

- ・座長 川名 広文 札幌大学 教授
- ・副座長 小杉 康 国立大学法人 北海道大学大学院 教授
- ・委員 阿部 一司 社団法人 北海道アイヌ協会 札幌支部長（平成 24～25 年度）
札幌アイヌ協会 会長（平成 26 年度）
- 石川 朗 釧路市埋蔵文化財調査センター 副主幹
- 大島 直行 伊達市噴火湾文化研究所 所長
- 川上 源太郎 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
環境・地質研究本部 地質研究所 研究主任
- 北島 英司 丘珠連合町内会 会長（平成 24～25 年度）
丘珠連合町内会 顧問（平成 26 年度）
- 鈴木 ゆか 公募委員
- 高瀬 克範 国立大学法人 北海道大学大学院 准教授
- 高橋 雅子 公募委員
- 椿坂 恭代 元札幌国際大学 客員研究員
- 富岡 直人 岡山理科大学 教授
- 平間 吉春 元北海道退職校長会 会長
- 吉田 恵介 公立大学法人 札幌市立大学 教授

【検討委員会のオブザーバー】

平成 24 年度

- ・長沼 孝 北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 主幹
- ・三部 英二 札幌市経済局農政部長
- ・大崎 茂己 札幌市東区市民部長

平成 25～26 年度

- ・長沼 孝 北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課長
- ・三部 英二 札幌市経済局農政部長
- ・須貝 武美 札幌市東区市民部長

【基本構想検討委員会の運営経過】

第 1 回 検討委員会 (平成 24 年 11 月 7 日)

- ・議題 1 事業の位置づけと委員会の目的について
- ・議題 2 埋蔵文化財の保存と活用について
- ・議題 3 基本構想に盛り込むべき内容について
- ・議題 4 現状における遺跡公園のテーマについて
- ・議題 5 遺跡整備の意義と縄文時代の研究動向について

第 2 回 検討委員会 (平成 24 年 12 月 25 日)

- ・議題 1 市内遺跡の概況について
- ・議題 2 さとらんだの遺跡の概要について
- ・議題 3 H317 遺跡の調査成果と H508 遺跡の展望について
- ・議題 4 他都市における遺跡公園整備事例について

第 3 回 検討委員会 (平成 25 年 2 月 25 日)

- ・議題 1 動物利用からみた H317 遺跡の位置付け
- ・議題 2 モエレ沼周辺の環境変遷について
- ・議題 3 「サッポロさとらんど」と周辺地域の現状について
- ・議題 4 遺跡公園整備のテーマについて

第 4 回 検討委員会 (平成 25 年 3 月 26 日)

- ・報告 1 講演会の実施結果について
- ・報告 2 第 1 回調査・整備委員会について
- ・議題 1 遺跡周辺に係る法的規制と都市計画との関係について
- ・議題 2 平成 25 年度の事業計画について

第 5 回 検討委員会 (平成 25 年 7 月 23 日)

- ・報告 1 平成 24 年度の事業概要について
- ・報告 2 平成 25 年度の確認調査と市民参加事業について
- ・さとらんど施設見学
- ・H508 遺跡確認調査現地視察

第 6 回 検討委員会 (平成 25 年 12 月 16 日)

- ・報告 1 これまでの検討経過について
- ・議題 1 基本構想 (案) について

第 7 回 検討委員会 (平成 26 年 1 月 29 日)

- ・議題 1 基本構想 (案) について

第 8 回 検討委員会 (平成 26 年 3 月 24 日)

- ・議題 1 基本構想 (案) について
- ・報告 1 平成 26 年度の事業計画について

【基本計画検討委員会の運営経過】

- 第1回 検討委員会 (平成26年11月6日)
- ・報告1 平成26年度の市民意見の集約状況について
 - ・議題1 整備基本計画の検討内容について
 - ・議題2 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第2回 検討委員会 (平成26年11月26日)
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第3回 検討委員会 (平成26年12月17日)
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)
- 第4回 検討委員会 (平成27年1月13日)
- ・議題1 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画(案)

【専門部会の委員構成：平成24～26年度】

- ・座長 川名 広文 札幌大学 教授
- ・副座長 小杉 康 国立大学法人 北海道大学大学院 教授
- ・委員 石川 朗 釧路市埋蔵文化財調査センター 副主幹
- 大島 直行 伊達市噴火湾文化研究所 所長
- 高瀬 克範 国立大学法人 北海道大学大学院 准教授
- 椿坂 恭代 元札幌国際大学 客員研究員
- 富岡 直人 岡山理科大学 教授

【専門部会の運営経過】

- 第1回 専門部会 (平成25年2月25日)
- ・議題1 平成24年度の測量調査の結果について
 - ・議題2 平成25年度の確認調査の方針について
- 第2回 専門部会 (平成25年10月8日)
- ・報告1 平成25年度の確認調査の結果について
 - ・報告2 遺跡公園整備事業への市民意見について
 - ・議題1 遺跡の評価と整備の方向性について
- 第3回 専門部会 (平成25年11月13日)
- ・報告1 H508遺跡の評価について
 - ・議題1 整備の方向性について
- 第4回 専門部会 (平成26年7月23日)
- ・報告1 平成26年度確認調査の市民ボランティア参加状況について
 - ・報告2 平成26年度の確認調査について

【委員会設置要綱】

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想・計画検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 サッポロさとらんど内に保存されている遺跡を活用した遺跡公園「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の整備・活用に向けた基本構想・計画を策定するにあたり、遺跡公園としてのあり方や役割・機能について、専門的な立場及び市民の立場からの意見を聴くため、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想・計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の整備に関する基本構想・計画について、出席者が意見交換を行うものとする。

(構成)

第3条 委員会は、学識経験者その他文化部長が適当と認める者の中から、公募により選出された者2名を含む14名以内で構成するものとする。

(設置期間)

第4条 委員会の設置期間は、委員が協力依頼を受けた日から平成26年度中までとする。

2 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長等)

第5条 委員会には、座長及び副座長を置くものとする。

2 座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときにはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、文化部長が必要に応じて招集する。

(オブザーバーの設置)

第7条 委員会には、数名のオブザーバーを置き、委員会の会議に出席を求め、意見を聴くことができる。

(意見の聴取)

第8条 座長が特に必要があると認めるときは、委員会の会議に、委員・オブザーバー以外の

者の出席を求め、資料の提出を受け、意見を聴くことができる。

(部会)

第9条 委員会は、その所掌事項に係る特定の事項について、専門的な意見交換を行うため、学識経験者からなる部会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、観光文化局文化部文化財課において処理する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、文化部長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年9月10日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年3月28日から施行する。

2 市民意見の集約

【発掘調査市民ボランティア（公募）】

- ・市民ボランティア参加期間
平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日
平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日
- ・市民ボランティア調査日数
平成 25 年度：期間中の 13 日間
平成 26 年度：期間中の 11 日間
- ・参加者数
平成 25 年度：49 名（女性 24 名、男性 25 名）
平成 26 年度：58 名（女性 20 名、男性 38 名）
- ・延べ参加者数
平成 25 年度：168 名
平成 26 年度：203 名

【発掘調査市民ボランティア意見交換会（ワークショップ：公開）】※

- ・平成 25 年度
開催日：平成 25 年 8 月 31 日
参加者数：15 名（女性 7 名、男性 8 名）
内容：A～C グループに分かれて遺跡公園について自由討論・発表
- ・平成 26 年度
開催日：平成 26 年 8 月 23 日
参加者数：29 名（女性 10 名、男性 19 名）
内容：A～D グループに分かれて遺跡公園について自由討論・発表

【遺跡公園の整備に関するアンケート】※

- ・発掘調査市民ボランティア
平成 25 年度：42 名回答（平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日）
平成 26 年度：53 名回答（平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日）
- ・丘珠縄文遺跡見学会参加者
平成 25 年度：83 名回答（平成 25 年 8 月 24 日）
平成 26 年度：106 名回答（平成 26 年 8 月 30 日）
- ・札幌市埋蔵文化財センター講演会参加者
平成 25 年度：21 名回答（平成 25 年 9 月 23 日）
平成 26 年度：100 名回答（平成 26 年 12 月 20 日）

※ 意見交換会及びアンケートの結果については、資料編「4 意見交換会の結果」（65 頁）、資料編「5 アンケートの結果」（69 頁）をご覧ください。なお、資料は札幌市ホームページでも公開しています（<http://www.city.sapporo.jp/kankobunka/maibun/>）。

3 市民との情報共有

【平成 23 年度】

- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 23 年 9 月 10 日～11 日 さとらんど交流館
- ・ 公開シンポジウム「遺跡の保存と整備・活用 ～さとらんど遺跡公園整備に向けて～」
平成 24 年 3 月 3 日 札幌市中央図書館 講堂
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 30 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 24 年度】

- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 24 年 9 月 8 日～9 日 さとらんど交流館
- ・ 講演会「縄文文化と札幌の遺跡」
平成 25 年 2 月 16 日 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 29 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 25 年度】

- ・ 確認調査現地見学
平成 25 年 7 月 24 日～8 月 11 日（確認調査実施日） 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 中高生体験発掘
平成 25 年 8 月 6 日～9 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 遺跡見学会
平成 25 年 8 月 24 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 25 年 8 月 24 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 講演会「遺跡公園の活用を考える」
平成 25 年 9 月 23 日 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」
- ・ 埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 埋蔵文化財センター展示室

【平成 26 年度】

- ・ 確認調査現地見学
平成 26 年 7 月 23 日～8 月 10 日（確認調査実施日） 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・ 中高生体験発掘
平成 26 年 8 月 2 日～3 日、6 日～7 日 丘珠縄文遺跡（現地）

- ・遺跡見学会
平成 26 年 8 月 30 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・出前展示「さとらんどの遺跡展」
平成 26 年 8 月 30 日 丘珠縄文遺跡（現地）
- ・公開シンポジウム《北の縄文世界》
「是川石器時代遺跡と丘珠縄文遺跡～遺跡公園の整備に向けて～」
平成 26 年 12 月 20 日 札幌市中央図書館 講堂
- ・埋蔵文化財センター企画展「さとらんどの遺跡展」
平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日 埋蔵文化財センター展示室

4 意見交換会の結果

(1) 平成25年度の意見交換会

発表された意見

Aグループの意見

●発掘調査を体験できる遺跡公園

- ・発掘しつづける遺跡公園(長く調査を続けてほしい)。
- ・親子、小・中・高生、一般を対象とした体験発掘を行う、毎年、発掘調査を体験してもらう。
- ・子どもに、竹ペラで発掘調査を体験させてあげたい。
- ・雨天時にも調査できるように、調査区にテントをかける(好天時は乾燥対策になるように)。
- ・発掘調査の疑似体験コーナーを設ける。
- ・遺跡を保存するため、一部は調査しないでほしい。

●遺跡の整備や展示の方法について

- ・発掘された遺物をそのまま展示する。石器群の一部を出土状態のまま展示してはどうか。
- ・発掘面を切り出して壁に展示する。
- ・出土状態が実感できるように、要所(トレンチ調査区)にドームをかける。
- ・縄文時代の地表面を露出しておく。その場に施設を建て、土にふれられるようにしてはどうか。
- ・発掘調査の方法がわかるような整備・展示を行う。

●歴史の比較

- ・本州の歴史と対比できるようにする。
- ・縄文、続縄文、弥文の名時代を対比できるようにする。
- ・さくらんどう内にある縄文時代の遺跡と弥文時代の遺跡の違いがわかるような展示を行う。

●楽しい・親しみやすい施設

- ・子ども、親子が遊べる遺跡公園。
- ・クイズラリーができる展示(全問正解するとメッセージが！)。
- ・マスコットキャラクターをつくる。
- ・キャンプをして土器づくりや火おこし体験ができる施設。

●古代の生活を体感できる施設

- ・昔々(縄文時代)を思い浮かべることができる空間をつくる。
- ・昔々の生活体験ができる施設(火をおこして、火を使って！)
- ・土器づくりや石器づくり体験。
- ・縄文時代の地面の高さを感じることができる整備。
- ・竪穴住居を再現し、当時の生活がわかるようにする。
- ・縄文時代には、冬はどうやって生活していたのが再現してある。

●学習ができる施設

- ・小・中学校と連携(総合学習)。
- ・もっと早く知りたかった(子どもの頃から学ぶことができるように！)。
- ・生涯学習。

●古代の食・農業

- ・古代に栽培されていた作物の栽培体験、ヒエを育てて(作る)・食べる。
- ・古代の農具を再現して、農業体験に用いる。

●施設の利便性

- ・札幌の中心部から直通バスを出す。
- ・冬の寒い時にも来てもらえるようする(通年型の施設)。
- ・健常者だけでなく、障がいのある方も気楽に参加・見学することができる施設。

Bグループの意見

●主な利用者

- ・主な利用者を絞ることが大切ではないか。
- 施設のターゲットを市民、地域住民、子どもに絞る。

施設のターゲット

- ・子どもがメイン
- ・大人も行きたくなる公園
- ・町内会(中高年層)も来てくれる公園
- ・中高生(女子)→パワースポットがあれば来てくれるのではないかな?

「これをやったら来る!!」

●五感で感じる体験型

- ・もぐる、のぞく → 地層を見せる。

●つくる

- ・火おこし体験、土器づくり体験など。

●時間を感じる

- ・完成させない、つくり続ける。
- ・発掘調査 → 少しずつ掘っていく(調査を少しずつ継続していく)。

●宿泊できる

- ・キャンプ。

●「かたち」に残る体験学習

- ・チケットや記念品を工夫する。

●博物館をつくる

- ・遺跡と隣接して博物館をつくる。

●食べる

- ・石器で料理。
- ・縄文料理(縄文時代に食べていた魚や動物を使って)。
- ・おいしい食べ物(名物)があるとよいのではないかな。
 - 例えば、ヒエまんじゅう(アワまんじゅう)。
 - 北海道神宮にある判官饅頭のような名物をつくる(地元の方々にも協力してもらう)。

●情報発信

- ・来てもらうには情報の発信が大切。

●協力

- ・学校教育と連携して子どもたちに来てもらう。

★課題

- ・車がないと来るのがたいへん!!
- ・バス停があればよい。
- ・施設の名称をもっと検討した方がよい。

Cグループの意見

●どんな施設

・まずは知ってもらうことが大切。



- ・レベル感は大事！わかりやすさも大切！
- ・みんなに見てもらえるような遺跡公園にしたい。
- ・単発ではなく、何度も来てもらえるような公園にしたい。
- ・縄文文化に興味がある人が来てくれればよいのではないか。
- ・学校とタイアップして参加できるような施設(単位制)。
- ・遺跡を残す → その場が大事！！
- ・ガイドも必要、学生さんの語り部がいるのが良いのではないが。
- ・世界遺産との関係、観光資源。
- ・体験発掘に小学生や中学生に参加してほしい。
- ・子どもからお年寄りまで体験できるような施設、縄文文化を理解できる施設。
- ・子どもが興味を湧くような体験型の施設。

●どんな体験発掘

- ・スコップを使って掘ることから始めないと遺跡を発掘調査した気にならない。参加することが大事。
- ・一般の人がもっと参加できる機会を増やしてほしい。
- ・もっと色々な遺物が出ると楽しい。
- ・遺物が出る地層から調査に参加した方がよい。

●どんな体験メニュー

- ・危険な体験は止めた方がよい。
- ・火おこし体験。
- ・縄文をイメージできるような体験。
- ・縄文の食を提供するのはどうか(例えばクルミなど)。
- ・食することやつくることなど、さまざまな体験。
- ・小さな子どもでも参加できるような体験メニュー、親子で参加できるような体験メニュー。
- ・もっとイベントをやれば人が来るのではないが。

●その他の意見

- ・ロマンが大事！！
- ・もっと話し合いが必要だと思う。
- ・縄文を押しつけるのはどうかと思う。
- ・縄文にこだわる必要性はないと思う。
- ・発掘調査を高いレベルで実施してほしい。

●まとめ

- ・「来て」→「見て」→「どう思わせるか」が大事。
 - 楽しくなってもらうことが大切。
 - 例えば、「食」をテーマにするのがいいのではないが。

(2) 平成26年度の意見交換会

Aグループの意見

●縄文の学びと体験の公園

○子どもの参加

- ・子どもたちが興味を持つ施設。 ・今と昔の違いを子どもと一緒に考える。
- ・電気やゲーム機など何もない生活を子どもたちと考える。
- ・小学校の総合学習の場を活用してはどうか（体験学習）。
- ・発掘を子どもたちに。 ・子どもの体験は無料にする。

○発掘体験

- ・年次計画をつくり、市民に発掘体験の機会を提供する。
- ・発掘体験を実施してほしい。実際の発掘調査が難しいなら疑似体験を実施する。
- ・やはり発掘調査は経験ですね！

○食文化体験

- ・さくらんどうが職業体験交流施設であることを利用した、当時の作物の栽培体験。
- ・料理、食文化の体験。
- ・土器づくり体験や、作製した土器を利用した煮炊き体験の実施。

○その他

- ・縄文時代の生活体験！！
- ・素朴な生活を想像できる体験。

●展示施設

- ・縄文らしい建物。 ・タイムスリップした空間づくり。
- ・縄文遺跡の意味（他との違いをわかりやすく説明してほしい）。
- ・縄文文化の時期の北海道の地図を展示する。
- ・遺物が埋蔵されている様子がよくわかる展示施設の整備。
- ・伝え方や解説の方法に工夫を！ ・わかりやすく展示！
- ・博物館などの施設（埋蔵文化財から見た札幌）。モノを中心に。縄文にこだわらない。
- ・弥生、縄文晩期、丘縄文遺跡。
- ・大きな箱物は必要ないと思います。 ・入館無料にする。

●ボランティア

○場所づくり・組織化

→ 継続的な活動・PR方法が重要

- ・参加しやすく楽しめるボランティア。
- ・自費でも楽しめるボランティア。
- ・ボランティア活動の一般化。市民参加を広く告知する。
- ・産・官・学・ボランティア連携必要。
- ・リピーターを増やすことが大切。
- ・遺跡公園の維持管理の補助的業務をボランティアとして行いたい。
- ・地域への働きかけ。
- ・各種体験に参加しやすいよう交通手段を確保（例：直通バス）。
- ・広報・PRに関する活動。
- ・勉強会。
- ・「発掘から整理まで」。
- ・後世への保存活動にも参加したい。
- ・遺跡整備に関する活動。
- ・継続的な取り組み。

Bグループの意見

●体験学習

- ・食の体験料理（ヒエ、チョウザメの卵、鹿肉、サケ、タマネギ：札幌黄）。
- ・当時の食べ物の再現。
- ・当時の環境（衣食住）での越冬体験。
- ・様々な体験（発掘調査・生活）。実際に様子を見せる。 ・見る体験学習。
- ・ヒエの原種と原生種のヒエの進化が分かるような栽培。
- ・縄文と今の食文化の共通点を探り結論を出す。
- ・火おこし、土器づくり、植物を採集し、魚を釣り料理をする。 ・土器の複製。
- ・（発掘体験の際に）雨天時限定の体験で人を集める。 ・発掘の体験をしたい。
- ・単発ではなくストーリーのある体験。
- ・子ども向けと大人向けとを分ける。

●学び

- ・発掘現場をそのまま保存、展示、ふれあい。
- ・公園で表現するもの。
 - ①北海道の生い立ち（地形図・断層）
 - ②札幌の成り立ち（年表・地層）
 - ③丘珠縄文遺跡の成り立ち
 - ④丘珠縄文遺跡の発掘調査の過程
- 最終的には、間近で現場を見る、ふれることができる。
- ・楽しい学習会。
- ・縄文人をなぞなぞで推理する。
- ・結果の展示ではなく、過程（推理）がおもしろい。
- ・生活していた人はどんな人か？
- ・狩りのための罠とし穴や竪穴住居跡がないことから、丘珠縄文遺跡を推理する。
- ・札幌周辺の他の遺跡との比較から丘珠縄文遺跡を推理するワークショップ。
- ・遺跡の連携。

●ボランティア

- ・ボランティアによるガイド。 ・遺跡のメンテナンスにかかわる（清掃・整理）。
- ・ガイドボランティアの養成とスキルアップ。 ・運営スタッフの一日体験。
- ・運営はボランティア中心で（大学とのコラボ、小中学生の参加）。
- ・地域住民の力を結集する。

●外部への情報発信

- ・発掘場所の年代別環境ムービーの作製。
- ・特徴的な立地の紹介（縄文時代は海岸、粘土質の地層）。
- ・遺物の詳細な調査結果の発信。 ・遺跡の小ネタのアナウンス。
- ・ショートドラマ（PV）の作製。 ・ウケ狙いのPVの作製。
- ・ネットやTVでとりあげられそうな「ゆるキャラ」の作製。
- ・学校教育との連動。
- ・市民（お客様）要望の把握（パブリックコメント、市民アンケート）。
- ・イベントを行う場合、ほかの遺跡と連動して行う（スタンプラリー、同時代体験ツアー）。

●移動手段

- ・さとらんどまでの交通手段の強化。
- ・さとらんどセンターから遺跡公園の施設までの無料園内車の運行。

Cグループの意見

● ボランティアの育成「育てる」

- ・ 新人の発掘調査ボランティアへの講習。
- ・ ライセンスを授ける。

● ボランティアの活動

- ・ 縄文時代の説明など。
- ・ 体験学習での講師。
- ・ 施設の維持・管理。利用者へのガイド。
- ・ 子どもたちと一緒に体験するガイドをしたい。
- ・ 公園ガイド。
- ・ 発掘調査があれば参加したい。
- ・ 発掘体験の下地づくり。
- ・ 整理作業にも携わる。
- ・ 継続的に発掘された遺物の復修に参加したい。
- ・ イベントの企画。
- ・ 主に障がい者に対する企画等での説明ガイド。

● ボランティアを継続するには・・・

- ・ 有償ボランティアにする。
- ・ 有償ボランティアは質の高さが求められる。本来はこちらから働きかけるのがボランティア。
- ・ ボランティアの交通費の負担が大きい。

● 広報活動

- ・ 公園（遺跡）のことを一般の人にチラシなどで知らせていく。
- ・ この遺跡の特徴を伝えていきたい。
- ・ もっと PR に力を入れる。
- ・ 調査の途中経過を広く周知する。
- ・ 興味のある人を集める。
- ・ 愛称（公園名）を公募する。
- ・ テーマに賛同して寄付を募る。

● 学習・体験・展示の企画

- ・ 東区の歴史在近世まで続ける企画をしてみたい。
- ・ 研究過程の紹介。
- ・ 出づくり村から本村を探すことはできないか。
- ・ 食文化を支える精神世界も探りたい。
- ・ 簡単な発掘の体験。
- ・ 深い体験。
- ・ 整理作業の体験。
- ・ 文化財を展示する場所が必要だと思う。
- ・ 専門のセンターを作るべき。
- ・ 4コマ位のたのしい映像で説明する。

Dグループの意見

●理想的な「ボランティア」サークル



●きっかけ作り

- ・さとらんどの埋蔵文化財とは？何をしているところか、わからない市民が多い。
- ・さとらんどの中に遺跡公園があるという立地の優位性を活かす。
- ・展示物の説明。
- ・小学生の団体には、大人数を相手に説明せず、少人数サークルで説明する。

●交通手段の充実化

- ・最寄りの地下鉄駅からのシャトルバスの運行（お迎え）。
- ・遠い地区の人のためのシャトルバスの運行（100円など）。

●ボランティア活動や体験学習の内容

- ・発掘体験のお手伝い。
- ・体験と一緒に参加して見守る。
- ・体験学習の企画。すでに体験した人の経験を活かす。
- ・ボランティアで体験した感動を味わえる参加型のメニューを考える。
- ・発掘された遺物の資料整理を有償ボランティアで行う。
- ・土器の洗いは楽しい。体験学習に取り入れたらどうか。
- ・夏休みイベント。遺跡の体験と天文観察やその他いろいろな学習・体験・イベント。

●人の「心」と「記憶」に残る施設づくり

- ・「行ってみたい」、「また来たい」と思ってもらう。 ・新しい公園にしない。
- ・市民だけではなく、道外からも来てもらうことができるような、皆さんの「心に残る」ような施設を考えてほしい。
- ・発掘された遺跡から、後世につながる公園、よりよい施設を作ってほしい（発掘体験や発掘された土器等を整備）。
- ・当時の生活様式を再現するコーナーをいくつか作る。

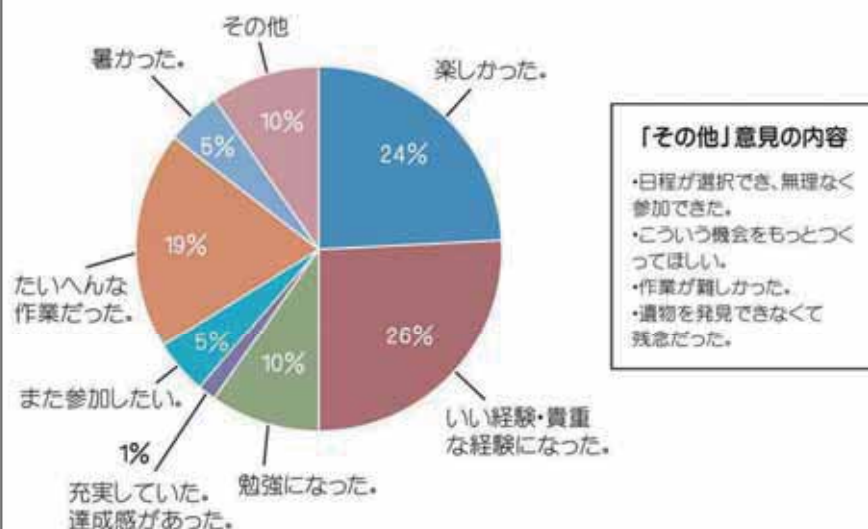
●宣伝方法の拡充

- ・公園名称の公募。
- ・ホームページ設置（インターネットを通して市民に広げる）。
- ・ホームページで発掘調査の状況を日々更新する。
- ・季節に合わせた発信を続ける。
- ・近くの町内会で、廻り番でできるボランティアの役割を考えてみる。
- ・近くの中学・高校からボランティアを募集し、学校とのつながりを拡大していく。
- ・ボランティアが資料を整理（面倒だが大切！パソコンの技能が身に付くメリットもある）。
- ・広報活動（ホームページ、フェイスブックの活用）。

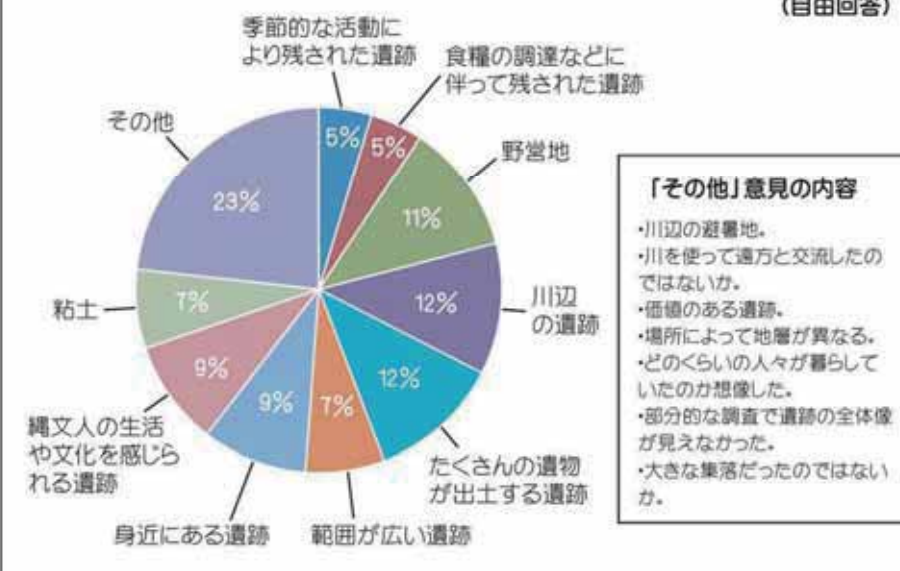
5 アンケートの結果

(1) 平成25年度発掘調査市民ボランティア

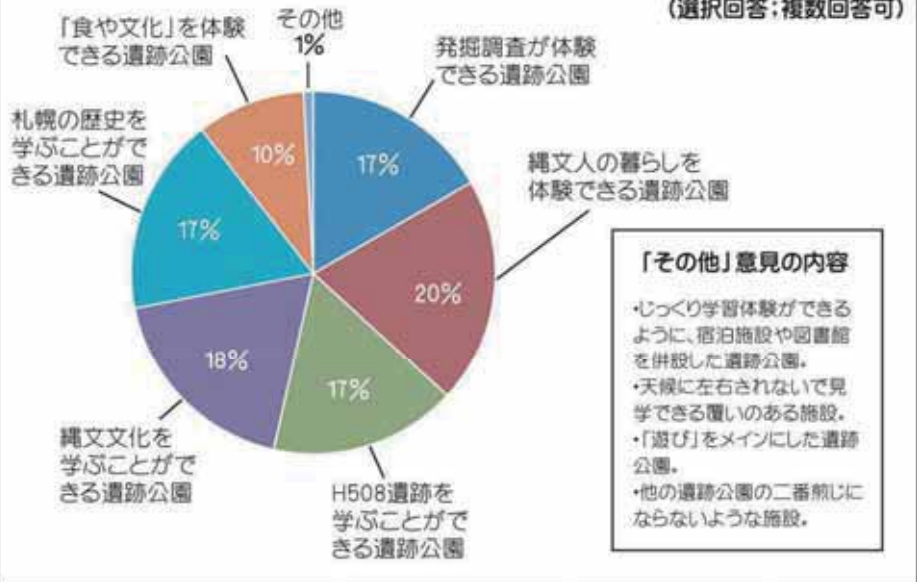
問1 発掘調査に参加された感想をお聞かせください。(自由回答)



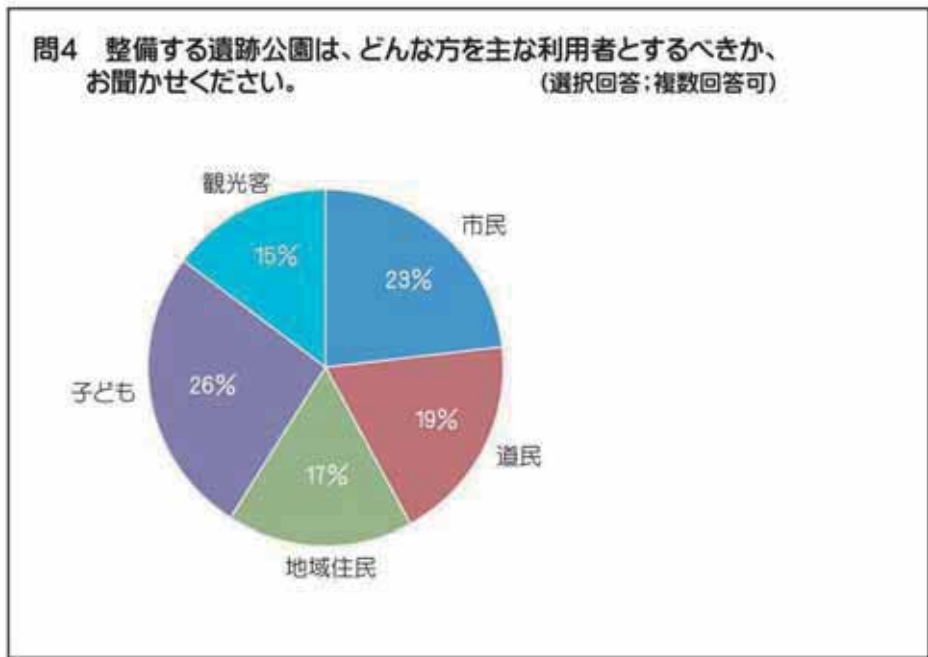
問2 発掘調査を体験して感じたH508遺跡のイメージをお聞かせください。(自由回答)



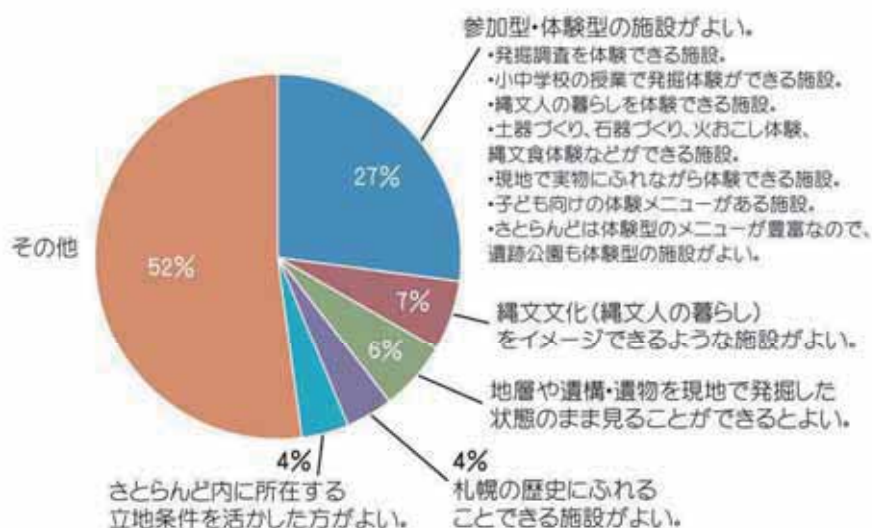
問3 H508遺跡を活用した遺跡公園に求めるイメージをお聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、お聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



「その他」意見の内容

- ・市民が何度も繰り返し利用したくなるような施設にしてほしい。
- ・本州と北海道の違いを理解できるような施設がよい。
- ・博物館的な機能も有する施設がよい。
- ・実物とじかにふれあうことができるような施設がよい。
- ・「遊び」を通して、遺跡に興味を持ってもらえるような施設がよい。
- ・考古学的な研究方法も学べるような施設にしてほしい。
- ・子どもから大人まで満足できるような施設にしてほしい。
- ・将来的には、観光客や研究者も誘致できるような施設が望ましい。
- ・年間を通して、さまざまな活動をするような施設がよい。
- ・緑豊かな施設がよい。
- ・後世に伝えていける見応えのある施設にしてほしい。
- ・情報の中心地になるとよい。
- ・他の遺跡公園に埋没しないように、ここだけにしかない魅力が必要だと思う。
- ・展示には、動画も取り入れた方がよい。
- ・解説員が常駐することが望ましい。
- ・施設の運営や管理には、ボランティアを活用してほしい。
- ・子どもにも理解しやすい展示にしてほしい。
- ・H508遺跡以外にも、遺跡公園を検討してほしい。
- ・天体観測などもできるとよい。

(2) 平成26年度発掘調査市民ボランティア

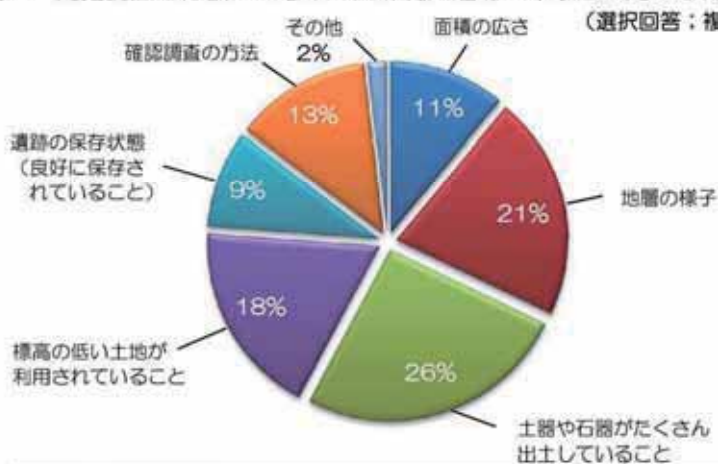
問1 発掘調査に参加された感想をお聞かせください。(自由回答)



「その他」意見の内容

- ・暑い中での作業だったが、快適に作業することができた。
- ・事前の準備がよく、意欲を持ってスムーズに調査に参加することができた。
- ・調査の進捗が丁寧に説明され、自分の作業の意味がわかりやすかった。
- ・解説がわかりやすかった。・現地説明が開けてよかった。・今後どのような発見があるのか楽しみ。
- ・ベテランの方から道具の使い方を教えてもらった。・継続的な作業で緊張した。
- ・自分が遺跡を壊してしまっていないか少し不安だった。・市内の遺跡ツアーなどにも参加したい。
- ・埋蔵文化財センターの収蔵庫も見学してみたい。・雨天中止連絡をもう少し早くしてもらえると助かる。

問2 発掘調査を体験して感じた丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答：複数回答可)



「その他」意見の内容

- ・調査員に詳しく説明してもらい、自分の手で遺構・遺物を発掘することで、古代人の生活の様子がわかり、勉強になった。
- ・粘土質の土地が生活の場だったことが印象的だった。

問3 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」は体験型の施設を目指していますが、どんな体験(体験学習)ができればいいと思いますか。

(選択回答：複数回答可)



「その他」意見の内容

- ・地面を縄文時代と同じ高さに整備する。
- ・縄文人が眺めた景色を復元する。
- ・竪穴住居づくり体験。
- ・土器を使った現代風の料理作り体験。
- ・整理作業体験。
- ・勾玉づくり体験。

問4 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の活用・運営は、市民ボランティアとともに考えていく方針ですが、市民ボランティアはどんな活動をしてほしいと思いますか。

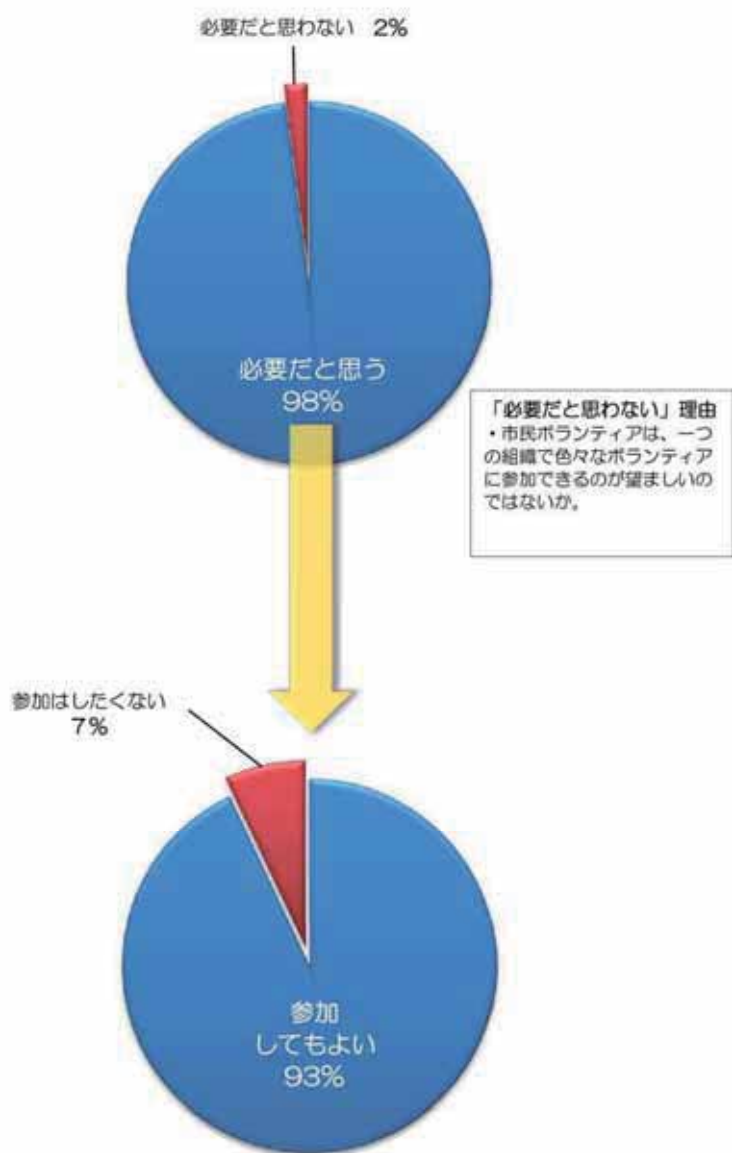
(選択回答：複数回答可)



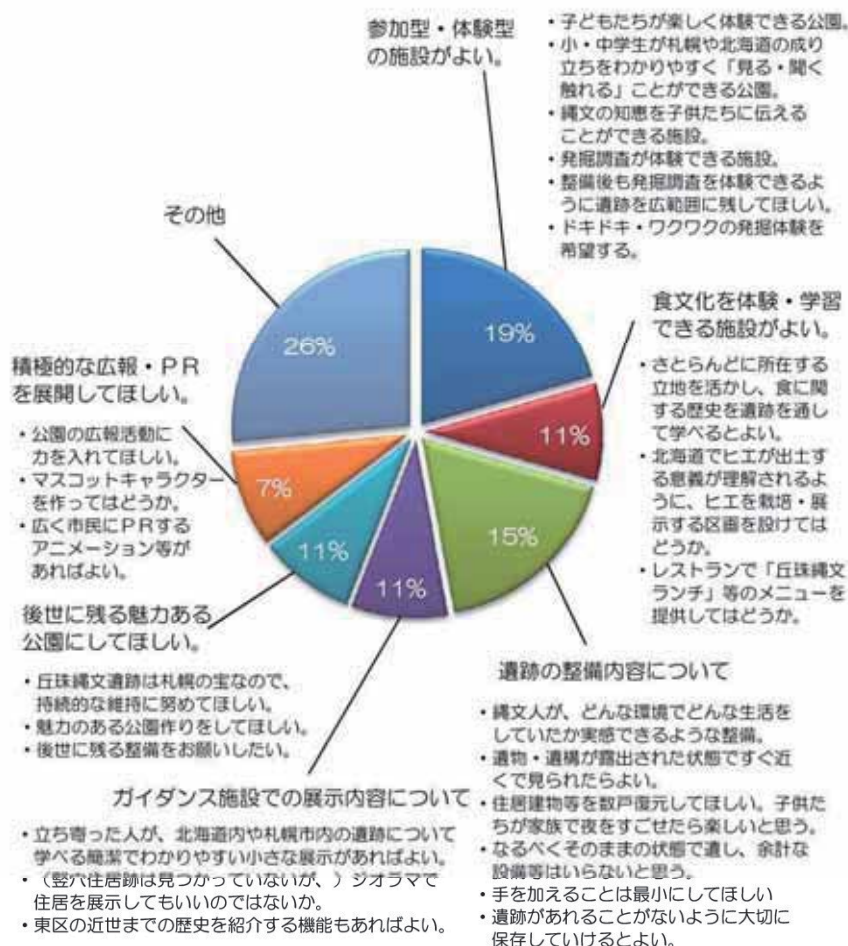
「その他」意見の内容

- ・ホームページの作成・運営。
- ・継続してかかわっていけることが大切。
- ・ボランティアでは利用者に対し専門的な説明が難しいのではないかな。
- ・できれば有償ボランティアがよい。

問5 「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」の活用・運営に活躍する
市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。(選択回答)



問6 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)

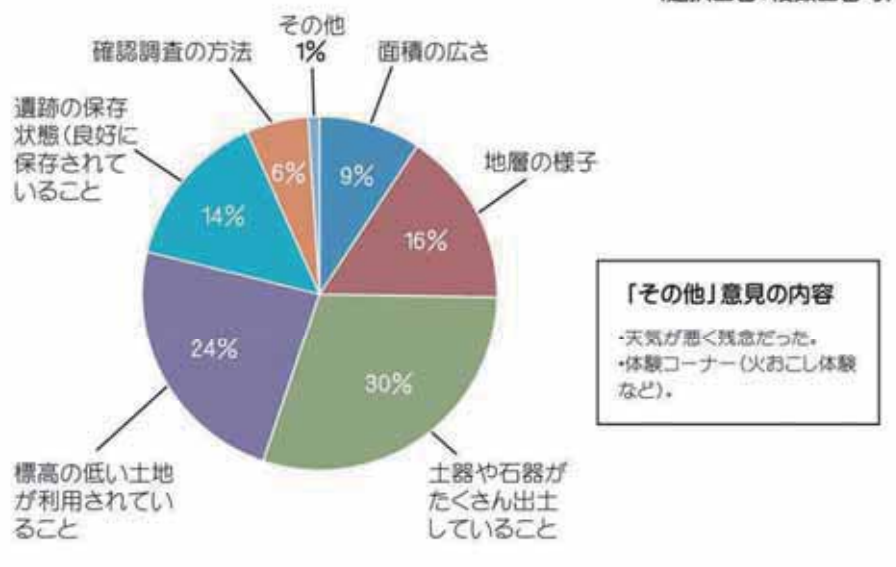


「その他」意見の内容

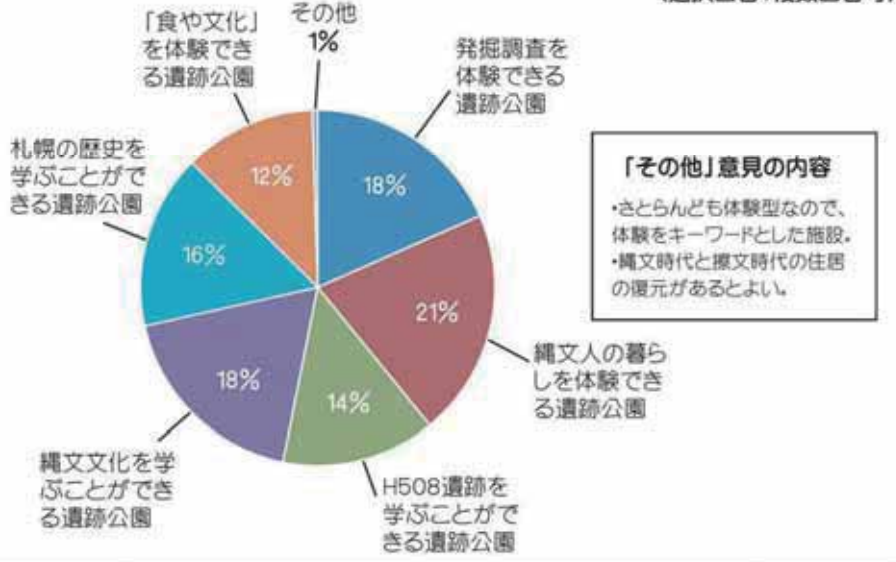
- 遺跡の特徴を色濃く出せるとよい。
- わかりやすい、おもしろい、ゆっくり楽しめる整備がよい。
- 2度3度と足を運んでもらうために、市の他部署と意見交換をしながら進めてほしい。
- 本当に必要なか、誰をターゲットにするのかなど、よく考えて進めてほしい。市税をかける事業なので、多くの市民に還元されるものであってほしい。
- 地域(住民)が主体となって関わる体制を整備してほしい。
- 車椅子の方もゆっくりのんびる見学できるような配慮と使いやすいトイレが必要だと思う。
- 市民による活用・運営は望ましいが、車がないと行くのが難しい点が少し気になる。
- ボランティアと市の職員との問答集を作成してはどうか。
- 調査で掘ったところをまた埋め戻してしまうのは少し借しい気がする。

(3) 平成25年度遺跡見学会来場者

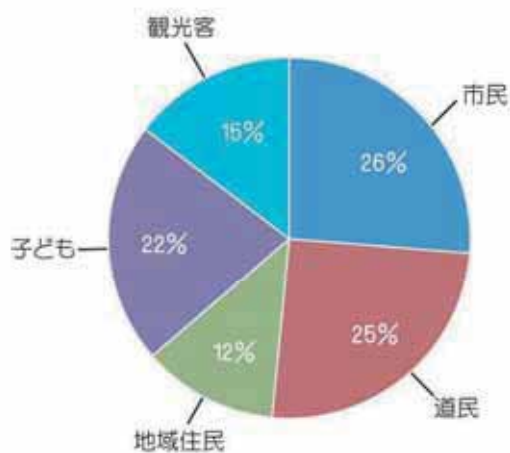
問1 H508遺跡を見学して印象に残ったことをお聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



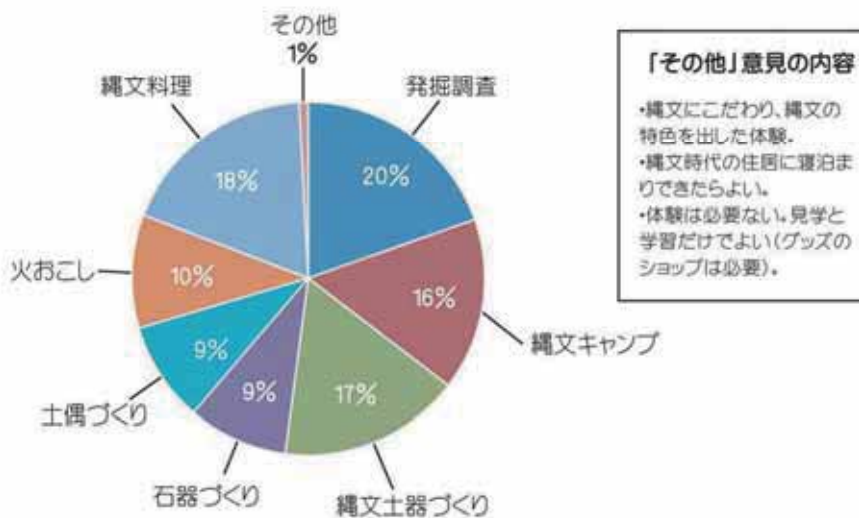
問2 H508遺跡を活用した遺跡公園に求めるイメージをお聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



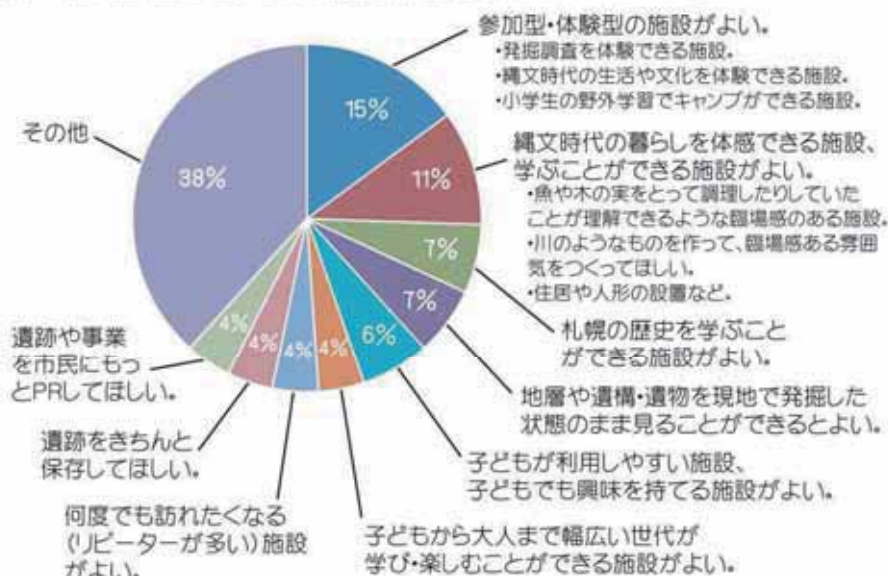
問3 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、お聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園で、どんな体験ができればいいと思いますか。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



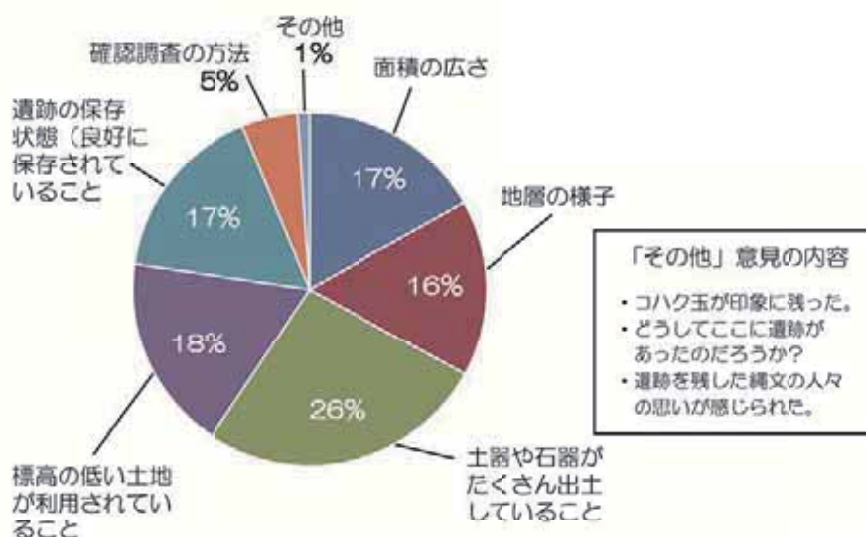
「その他」意見の内容

- ・遺跡公園の整備は、一般市民の古代に対する歴史認識が広がるのでよいことだと思う。
- ・貴重な遺跡なので、歴史の重み・深さを知ってもらえるような施設にしてほしい。
- ・札幌の有史以前の地史的なことも学べるような施設にしてほしい。
- ・あまり手を加えず、元に近い状態で展示した方がよい。
- ・遺物のレプリカを作って、出土状態を復元し、その地面にふれられるような展示がよい。
- ・観光資源とする程の規模ではないので、市民・小中学生の教育、いこいの場にしてほしい。
- ・「遊び」を通して学ぶことができる施設にしてほしい。
- ・縄文にこだわった遺跡公園がよい。ポイントを絞らないと、他の公園と同じになってしまう。
- ・北海道独自の文化をアピールしてほしい。
- ・遺跡公園の整備を通じて、さとらんど公園としての価値を高めてほしい。
- ・将来的に、モエリ沼公園と合わせ、海外からの観光客も楽しめるような施設にしてほしい。
- ・観光事業とタイアップして、遺跡公園をアピールすることが必要だと思う。
- ・他の遺跡公園に負けないような施設にしてほしい。
- ・屋外と屋内とで展示内容を分けて整理した方がよい。
- ・出土した遺物を常に展示する施設が必要だと思う。
- ・質問に常に答えられるような専門家が常駐していることが望ましい。
- ・周辺環境整備が必要だと思う。
- ・もっと広い範囲を発掘調査をしたところを見学したい。機会があればまた見学したい。

※問5については、自由に回答いただいた内容を整理し、同種の複数意見をまとめて集計・表示しています。単独意見については、「その他」の項目に一括して集計し、意見内容は個別に表示しています。

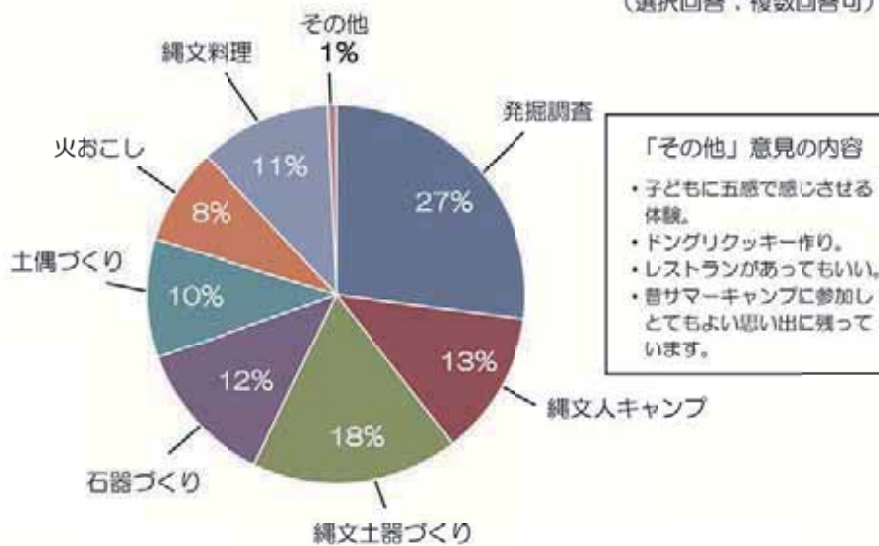
(4) 平成26年度遺跡見学会来場者

問1 丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答；複数回答可)

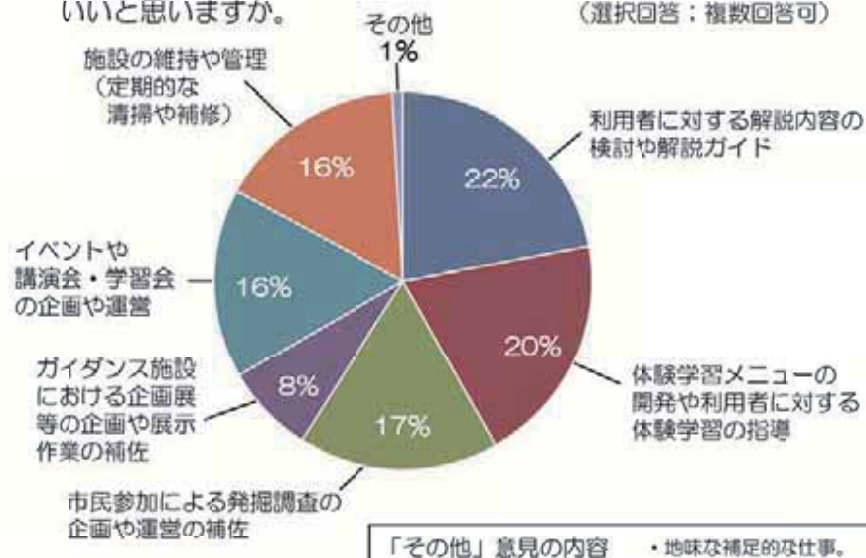


問2 どんな体験(体験学習)ができればいいと思いますか。

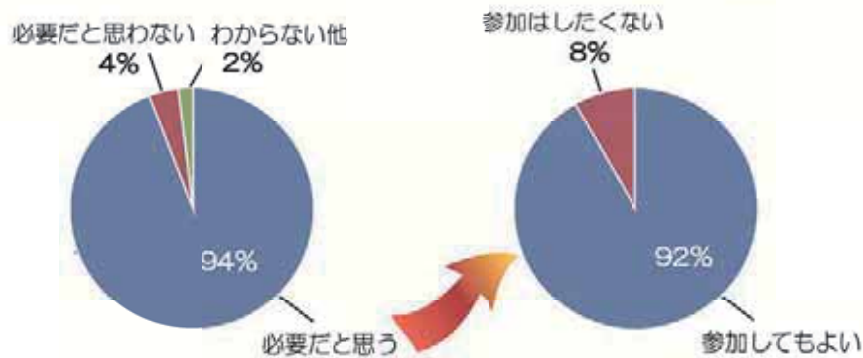
(選択回答；複数回答可)



問3 整備する遺跡公園で、市民ボランティアはどんな活動をしたらいいと思いますか。
(選択回答：複数回答可)



問4 遺跡公園の活用運営に活躍する市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。
(選択回答：複数回答可)



必要だと思わない理由

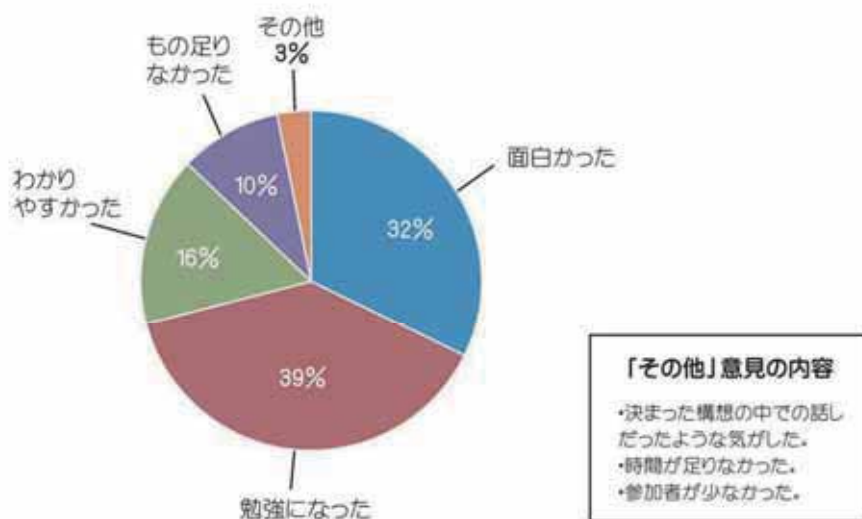
- ・専門家(プロ)の話しを聞きたいため。
- ・専門の方が活動した方がよい。

問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)

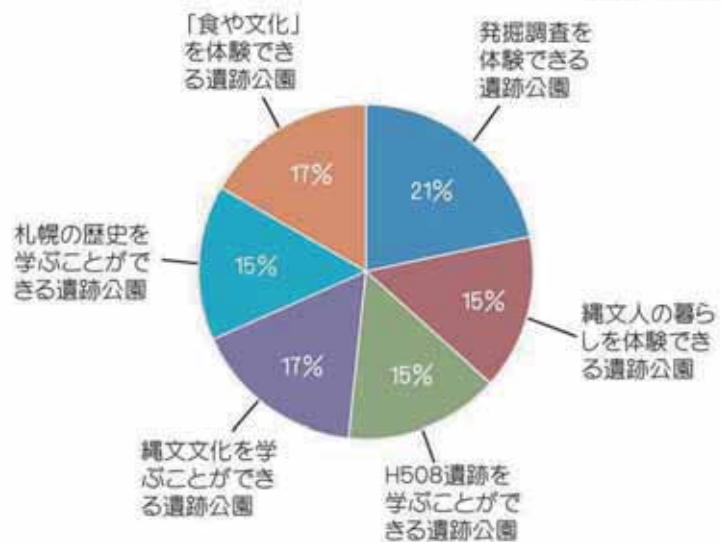
- たくさんの人に、札幌に遺跡があることが広まるような公園になればいい。
- たくさんの方が、自然に縄文文化を感じられる場になってほしい。
- 現在の自分たちと結びつけて、縄文に想いをはせる事は無駄ではないと思う。学術的なことはわからなくても、生命やくらしが受け継がれて来たんだと感じる機会を提供する施設は、あった方がよいと思う。
- 札幌の遺跡を見学したのは初めてで、遺跡公園の構想についても初めて知ったが、すばらしいことだと思う。小学生が、校外学習で見学できるといいと思う。
- このような見学会があることを今回初めて知ったが、参加できて本当によかった。パネル展も、とてもよかった。次回も機会があれば、友人にも教えて参加したい。遺跡の説明がとてもわかりやすかった。
- 子どもたちが、昔の時代に興味を持つような公園ができたらよいと思う。
- 大切に保存してほしい。遺跡を残してほしい。
- 発掘する公園がいいと思う。
- とても感動した。
- 調査員の説明がとてもよかった。遺跡公園の整備に大賛成。
- 説明が大変わかりやすくよかった。もっと大がかりに調査をしたらいいのではないか。
- すごく勉強になった。
- 現代の歴史に通じるストーリーがわかるような公園にしてほしい。
- 原位置主義を守り、自然性を保持した整備を行ってほしい。
- 縄文人の生活がわかればいいと思う。竪穴住居に入ってみよう。縄文文化を体験して、次の世代に伝えたい。市民がみんなで気軽に勉強できる場をつくってほしい。
- 初めてさくらんできて、たまたま参加したが、とてもラッキーな日だと思った。職員の説明もわかりやすく、色々な興味を持つことができた。この場所を多くの方々に知ってもらい、小学校などとうまく連携してほしいと思う。貴重な体験を家族でさせてもらい楽しかった。この場所を守ってほしい。
- 活動の主体となるNPO団体を作ることは必要だと思う。そういった団体の意見を取り入れて、公園を作ってほしい。その他に、小中学校の学習支援も必要だと思う。
- 体験型のストーリーのある公園にしてほしい。
- 参加型の施設にしてほしい。
- 歴史の勉強になるようなクイズをつくってはどうか。
- 自然を大切にしながら、公園づくりを進めてほしい。
- もっとPRするとよいのではないかと感じた。
- さくらんできてまでの交通アクセスを考えてほしいと思う。
- 九州の吉野ヶ里遺跡や青森の三内丸山遺跡など構築物が主となるが、今のところ構築物が発見されていないようなので、何を目玉にするのか十分な検討が必要だと思う。
- 札幌の広さに比べて、ほとんどないのに驚いた。
- 必要ない。写真だけでよい。

(5) 平成 25 年度講演会来場者

問1 講演会に参加した感想をお聞かせください。(選択回答;複数回答可)



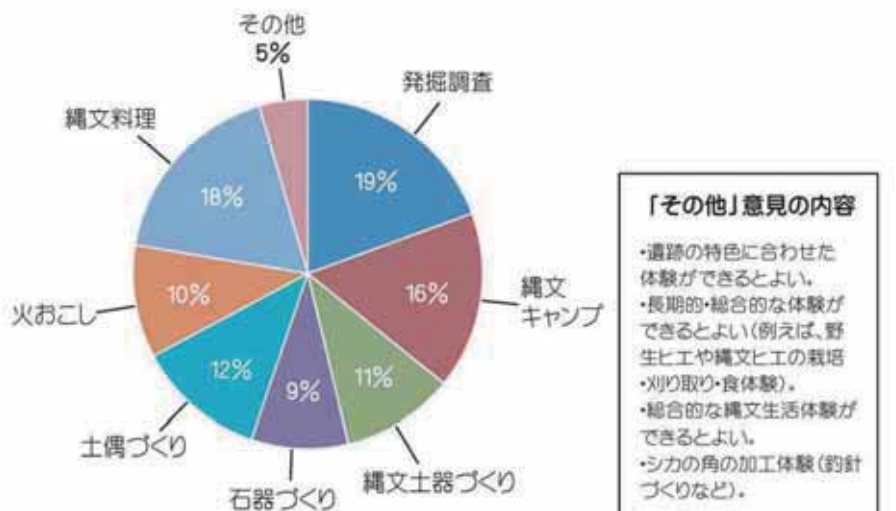
問2 H508遺跡を活用した遺跡公園に求めるイメージをお聞かせください。(選択回答;複数回答可)



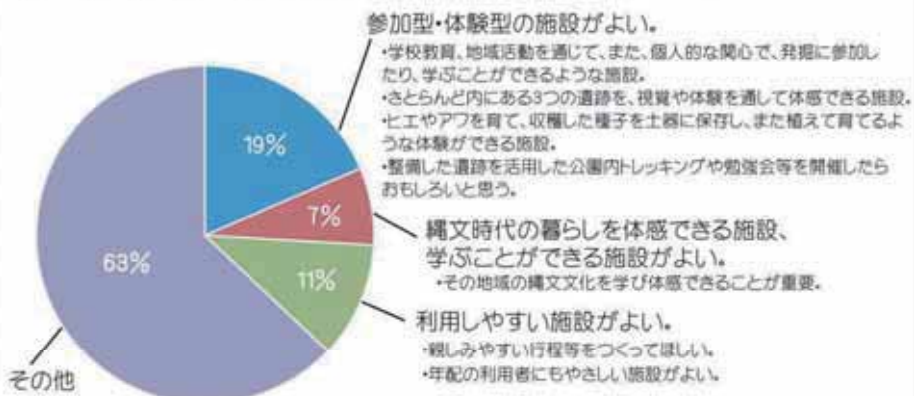
問3 整備する遺跡公園は、どんな方を主な利用者とするべきか、お聞かせください。
(選択回答;複数回答可)



問4 整備する遺跡公園で、どんな体験ができればいいと思いますか。
(選択回答;複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)



「その他」意見の内容

- ・行政と市民との協力のもと、みんなで少しずつ完成させていければ良いと思う。
- ・施設運営に地域住民が継続的に参加できる環境を整備し、地域に根ざした施設にしてほしい。
- ・リピーターが多くなるような工夫が必要だと思う。
- ・H508遺跡の特徴を活かした整備をしてほしい。
- ・遺跡を保存しつつ、遺構や遺物が出土したままの状態で見学できるように、屋根付きの施設が整備できれば良いと思う。
- ・子どもたちが縄文文化を知るきっかけになるような施設にしてほしい。
- ・学校教育と連携し、先生が主体的に遺跡の活用に関わることができる体制が大切だと思う。
- ・復元した古環境(河川や森林など)を子どもの遊び場として活用できたらおもしろいと思う。
- ・長い年月が経過しても遺跡を保存できるような整備をしてほしい。
- ・仙台市の「縄文の森広場」のような施設が、札幌市にもできたら良いと思う。
- ・伊達市の北黄金貝塚や名古屋市の見晴台遺跡の活用例が参考になると感じた。
- ・モエレ沼公園が隣接しているので、さとらんどとモエレ沼公園との直通バスがあるといいと思う(土日には1時間に2~3本運行)。
- ・遺跡公園の存在を広く知ってもらうことが大切だと思う。
- ・「さとらんど」と「遺跡公園」を相対化する中で、「農耕」＝「進歩」、「狩猟」＝「未開」というような固定化されたイメージを超えた整備を期待する。
- ・会場の声をよく聴いてほしい。
- ・「見せかけ」の市民参加にはしないほしい。

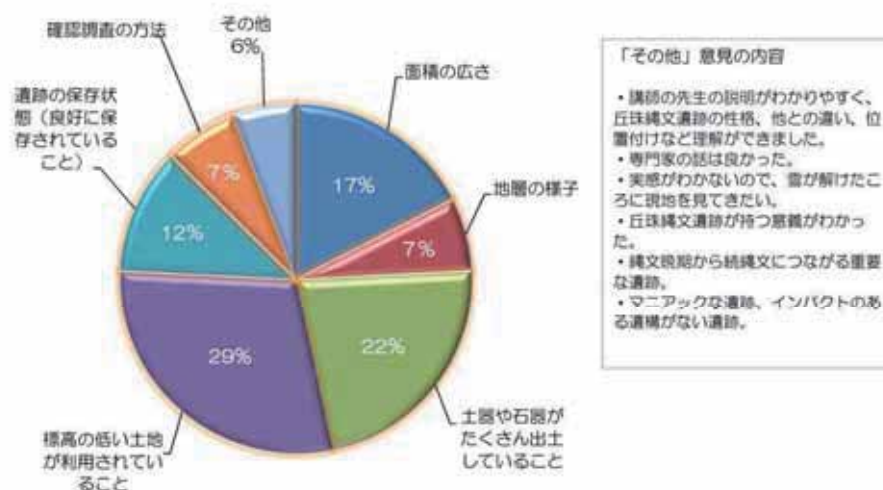
※問5については、自由に回答いただいた内容を整理し、同様の複数意見をまとめて集計・表示しています。単独意見については、「その他」の項目に一括して集計し、意見内容は個別に表示しています。

会場からの発言

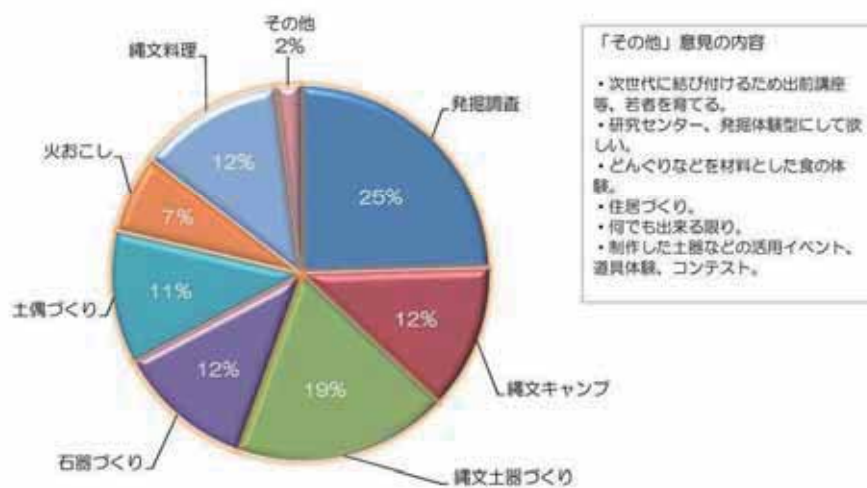
- ・札幌市に博物館がないのはおかしい。
- ・子どもたちが身近な遺跡を知ることができるような施設が必要だと思う。
- ・参加者の人数が少ない。市民の声に耳を傾け、時間をかけて事業を浸透させるべきだと思う。
- ・仙台市の施設のように楽しいものができたら良いと感じた。
- ・サケの解体や調理体験などができたら良いと思う。

(6) 平成26年度公開シンポジウム来場者

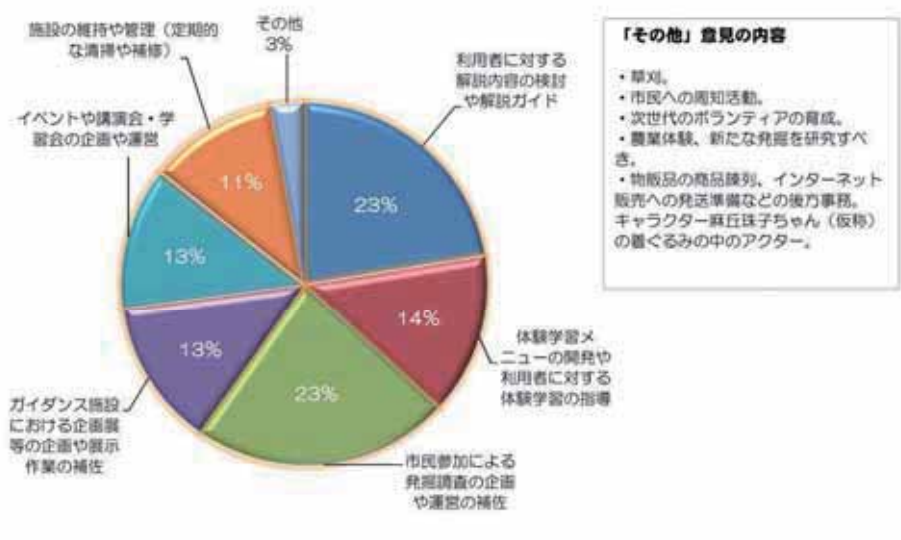
問1 丘珠縄文遺跡の印象をお聞かせください。(選択回答；複数回答可)



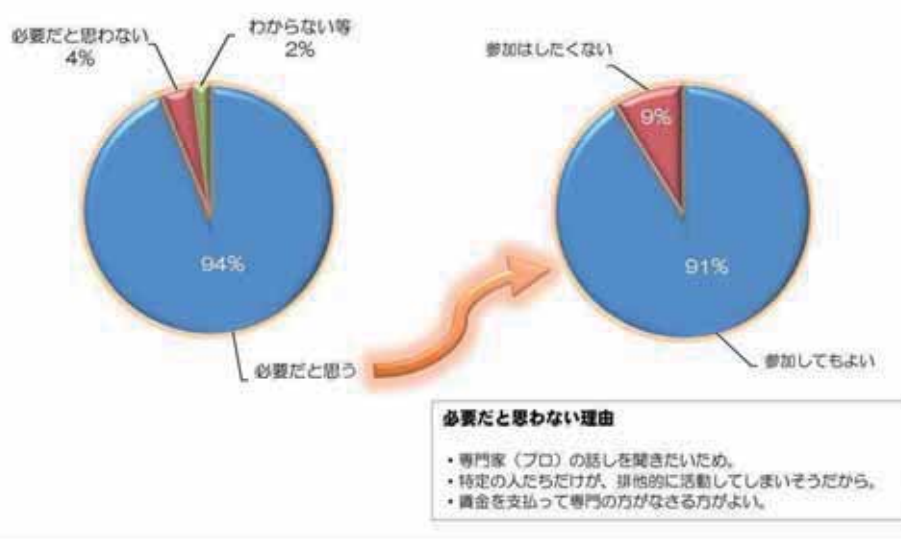
問2 どんな体験(体験学習)ができれば良いと思いますか。(選択回答；複数回答可)



問3 整備する遺跡公園で、市民ボランティアはどんな活動をしたら良いと思いますか。
(選択回答；複数回答可)



問4 遺跡公園の活用運営に活躍する市民ボランティアの団体は、必要だと思いますか。
(選択回答；複数回答可)



問5 遺跡公園に対するご意見をお聞かせください。(自由回答)

- 札幌のシンボルとなるような公園づくりを。
- 子供から大人まで活用できる公園にしてほしい。
- 市民が親しみを深められるような、解りやすく体感できる遺跡公園にして欲しい。
- 生きてる公園づくりを期待してます。
- 将来あるべき姿を明確にして市民の賛同を得ることが必要です。もっと意見を求めてより良い公園を作って欲しい。
- 長期的なスパンで調査研究していくために、遺物の収蔵・展示に十分な施設が要ると思う。
- 何度もリピートして訪れてもらうため、遺跡だけではなく、近隣に集客力のある施設を複合的に建設してほしい。
- 札幌市縄文早期から続縄文までの移りかわりをわかり易く展示して欲しい。また、居住地が次第に低地まで移ってきたこと、生活様式の移り変わり、地形、地層の移り変わり、道内の他遺跡との共通点・相違点など、丘珠縄文遺跡の意義が明確にわかる展示にして欲しい。
- 出土品の保存・管理が重要なので、市内各所の出土品等の集約的な施設とし、教育・観光面を取り入れた施設を望みます。
- 何回行っても楽しめる(変化のある)資料館のようなものがあって欲しいです。
- オリンピックもあり、お金をかけない施設、運営を期待する。
- 是川縄文館のような博物館になれば良いと思っています。知識をおしつけるのではなく、何度も足を運びたくなる公園施設になる事を希望します。ハード的な建物を作らないのも良いのですが、出土資料を現地で整理、展示できる事を希望します。
- 長期的に継続してゆけるよう、専門職の方を中心に遺跡を大切に頂きたい。屋根をつけて保存するなど、そのままの状態を残して欲しい。
- ボランティアの導入は、遺跡に興味・関心を寄せる人々を集めたり、コストを低くおさえた運営にはなると思うが、ボランティアに対する教育を適正に行わないと、正しく知識が伝わらず、遺跡そのものの質の低下を招くのではと懸念する。今日の講演から、遺物が多く情報をたくさん得られると、正しく時代を振り返れると感じた。これからも大切に掘り続けていけたらよいと思う。
- 発掘調査等があれば大変うれしい。何年もかけて継続的に発掘をするのは新しいイメージ。
- 見に行くのではなく、作業に行く公園は興味深いかもかもしれないと思った。
- 丘珠縄文遺跡には是川遺跡のように、ビジュアルで勝負できるものはありません。しかし、だからこそこの公園整備に関する議論は意味があると思います。今後、長く市民が遺跡公園に関っていくというお話でしたが、考古学の新しい知見・発見を、この遺跡公園を通じて市民が知ることのできる仕組みもあるとよいと思う。
- ボランティア活動を多様化して、ボランティア活動の参加者を増やして欲しい。
- ボランティアに大きな負担をかけない計画にして欲しい。
- 発掘が継続されるのであれば、是非ボランティアとして参加したい。狭い範囲を体験発掘して、それを埋め戻しせずに継ぎあわせるといった考え方は感激した。
- はらっぱを活かして、整えすぎない縄文大地のエネルギーが感じられる場所にしてほしい。魅力的でかわいいグッズや書籍などを置くと同時に、その情報を発信することが大事だと思います。
- 周囲とマッチした空間デザインにして欲しい。
- 直通バスがあれば便利。
- 未来を展望するとき、遺跡は必ず大きなヒントになるものと考えてる。
- さとらんどという場で縄文時代の学習ができれば、古代人を感じることができると思う。
- モエレ沼公園、サッポロさとらんととの連携(共同展示、共同イベントの実施)が必要。
- 是川に八戸市埋蔵文化財センターがあるように、丘珠縄文遺跡公園に札幌市の埋蔵文化財センターを移動して独立した建物を作って欲しい。